

感謝箱献金だより

ガリラヤのほitori 45号

「センキョー 宣教？選挙？」

以前、私が所属する地域の幼稚園の集まりで、知事さんや市長さん、議員さんたちをお呼びして、交流を深めるという会がありました。選挙の時は応援するので私たちの団体のことよろしく。という意味合いで、首長さん、議員さんのお話を聞きました。

お話が上手だなあと思う反面、自分たちを支持している団体の集まりなので、批判されることもなく気持ちよく話をしている。そう感じる時間でした。

最後の方に私たちの団体の年配の方が、ご自身が感じた政党との関わりを話しながら、政治家の思いよりも、政党の考えが優先されることの危険性、人間の主体性について、お話をされました。

それぞれの園は、もともと地域の必要を感じた人間が私財を投げうって始めたもの、「こうしたい」という思いをもって始めたもので、役所や政治の言いなりになるものではない。自分たちの独自性がなければ、続けている意味がない。と初心に戻るような厳しい促しがありました。9割の時間がとても退屈なものでしたが、その大先輩のお話を聞いたことは大きな恵みの時でした。

私たちの教会、婦人会、そしてこの感謝箱献金の働きも「この場所でこの人たちと共に歩みたい、関わりたい」その思いから始められた活動、共同体であり、その思い、熱を大切に引き継いでいます。

しかし、時間が経ち、人が代わっていくと、熱量が薄まっていき、引き継いだカタチの維持だけで疲弊してしまっている。その現状は仕方のないことですが、最初の熱を思い起こし、今できるそれぞれの形へと歩みを進めていければと思います。

自分自身の反省も含め、命の大切さ、平和への願いの熱量も薄まってきていると感じる昨今ですが、神様が用意してくださる出会いをとおして、大切なことに気づき、整えられていく機会となることを願います。



日本聖公会婦人会
コアチャプレン
司祭 アントニオ 出口 崇

お献げ先の活動報告から

RITA-Congo (リタコンゴ)

代表 華井和代

2025年の活動報告から

RITA-Congoは2025年3月に設立5周年を迎えました。今年度も引き続きコンゴ民主共和国(以下、コンゴ)における紛争と性暴力の問題に関する研究を行うとともに、日本の私たちのくらしとのつながりを日本の市民に理解してもらうための啓発活動を行いました。

弊会主催イベントとしては、1月にコンゴ東部紛争が悪化したことを受けて緊急オンラインセミナーを開き、現地で医療活動をされていた方を招いてのオンラインサロンも開催しました。

また、東京大学が関わる「プラチナ未来人材育成塾」や、アジア経済研究所と早稲田大学が共催した「アフリカ塾」などの外部イベントで講演したり、『外交』や『SRID ジャーナル』などの専門誌に論説を寄稿したり、「国際芸術祭あいち」に出演したコンゴ人アーティストのパフォーマンスに解説を提供したり、多摩動物公園で開催されたアフリカフェアでのパネル展示に協力するなど、日本国内における社会啓発活動を精力的に行いました。5月には国際会議のために来日したコンゴ人婦人科医のデニ・ムクウェゲ医師と面会してパンジ病院の現状をうかがい、その様子を支援者のみなさまに報告しました。さらに、日本からの支援がコンゴにおける人間の安全保障の実現に寄与できるよう、外務省へのパブリックコメントを提出しました。



5月に国際会議のために来日したコンゴ人婦人科医のデニ・ムクウェゲ医師(中央)と面会

2026年度の計画

2025年1月にコンゴ東部紛争が悪化して以降、解決に向けた国際社会からの働きかけはますます重要性を増しています。アフリカ諸国やアメリカの仲介による和平合意は、一見すると紛争が解決に向かっているかのような印象を与えますが、実態として紛争は止まらず、欧米諸国による資源搾取の機会を広げてコンゴの人々の苦境を長期化させる懸念があります。RITA-Congoはこれまでに築いてきたコンゴの現地コミュニティとのつながりを活かして紛争の実態を把握するとともに、関与する周辺国政府および欧米諸国の利害関係を明らかにします。そして、主催イベントや外部講演を通じてコンゴの状況を日本の多くの方々に知ってもらい、考え行動を起こすきっかけを作る活動を続ける予定です。

サイディア・フラハ

代表の荒川勝巳さんがケニアから帰国、活動報告会を開催

中尾由紀子

12月3日(水)、大阪の寺田町にある、長年の支援者、渡辺さん宅のコミュニティルームで行われた帰国報告会に日聖婦の役員、大阪教区婦人会の会員とコアスタッフなど7名で参加しました。6年ぶりの報告会ということで、会場には30人を超える参加者が集まり、当日の朝、夜行バスで大阪に到着された荒川さんもとても喜ばれていました。

報告会が始まり、パワーポイントで映し出されたのは、ケニアの首都、ナイロビでは高層ビルが建ち、近代化した街のように見えます。しかし、その周りを取り囲むようにスラムが広がる現実があります。ケニアでは貧富の差が大きく、また男女差別も根強く、母親・女兒は厳しい環境にあります。

首都から30キロ離れたキテンゲラ市にある「サイディア・フラハ」の児童養護施設の入所者は全員女子で、シングルマザー家庭の子供が多数です。施設の子供たちの日常生活の様子を写しながら、お話されました。「サイディア・フラハ」は他にも、託児所・幼稚園・小・中学校も運営しています。ケニアの子供たちは歌って踊ることが大好きで、ちょっとした場面でも楽しくリズムカルに振舞います。卒業式の証書授与の時には、子供だけでなく、両親も先生も踊りながら進み出て授与されます。困難な環境の中でも明るく振舞う子供たちの姿に力強さを感じました。当日の参加者の中に、2週間滞在してボランティア体験をされた村上さんがおられ、貴重な体験談を聞くこともできました。短い時間でしたが、感謝箱献金のお献げ先のサイディア・フラハを他の支援者と共により深く知ることができました。お話の後、荒川さんのケニア土産のコーヒーを皆でいただき、最後にケニアの郷土楽器を演奏しながら荒川さんの素敵な歌声も披露されて、充実した報告会でした。



荒川さんと施設の子どもたち

2025年活動報告から

代表 荒川克巳

今もケニアでは不況が続き、子供たちは厳しい状況に置かれています。児童養護施設の必要性は高まるばかり。現在入所中の子どもは高校生が5名。公立学校の授業料は無料ですが、昼食費や文房具に多く費用が掛かります。昨年末に高校を卒業した3名は、将来の自立に向けて職業訓練学校へ半年間通わせます。昨年末、サイディア・フラハの中学を卒業した1名は近所の公立高校に入学するため、制服や体操着、靴などを購入。もう1人の施設の高校生とともに昼食・文房具などの費用も必要です。皆様からの支援はこのために使わせていただきます。



改修工事が終わり明るくなった幼稚園舎。1/6から新学期が開始しました。

アトウトウミャンマー

代表者 マキンサンサンアウン・渡邊さゆり

2025年度の活動報告から

- 1) **ミャンマーを覚える祈り会**：毎週金曜日午後9時～9時40分、オンラインミーティングによるミャンマーを覚える祈り会を実施。この集会は、ミャンマー軍事クーデター直後の2021年2月12日から毎週継続されている（休会なし）。現在260回目（2026年1月30日現在）。毎回平均60人が参加。エキュメニカルな集会で、クリスチャン以外の参加者もいる。ミャンマーレポート、アトウトウミャンマーの会計報告、活動報告を毎回30分間行い、その後、小グループによる討議と祈り、ポットバンギング（鍋叩きという抵抗アクション）、全体祈禱を実施している。司会は、アトウトウ世話人会のメンバーが輪番制で行っている。
- 2) **ミャンマー中部大地震被災者支援**：2025年3月28日に発災したザカイン州、マンダレーを中心とする大地震によって建物の倒壊、インフラ断絶、火災、その後の空爆によりさらに被害が拡大した。正式な死者、負傷者の数は不明。クーデター軍評議会の発表によると、死者がおおよそ3,800人、負傷者は5,100人、行方不明者は116人、85万7,000人が被災となっているが、実数は政情不安につき不明。以下のMIT（ミャンマーバプテスト連盟の関係団体であるミャンマーキリスト教神学機構の中にある、コミュニティセンターの活動）の現地スタッフの活動を支援。MITを通じた被災地のIDP（国内避難民）の支援の総額は、290万円（2025年3月から2026年1月まで）。メソジスト教会が現地活動を実施し、被災北部地域にて、空爆から逃げているIDPと被災者の合同のシェルターを建設。アトウトウミャンマーからの支援金25万円を送金した。
- 3) **ミャンマーキリスト教団体支援**：ミャンマーバプテスト連盟の関係団体である、MITの中にある、コミュニティセンターの活動「カリスケア」、「フィロケア」を通じて、被災地、および空爆によって逃げ出した国内避難者支援を実施。「カリスケア」は、発災直後に現地調査を実施し、被災し家屋を失った路上にいる人々への飲料水の供給、フードバッグの配布を実施。その後、被災者のトラウマケアのため、「フィロケア」と連携して、専門のカウンセラーを派遣し、マンダレー地域のバプテスト教会を拠点に、ワークショップを複数回実施した。
- 4) **タイ国にいるミャンマー移民支援**：アトウトウランチ ミャンマーカレンとの国境を持つタイ、ターク県メーソットの移民学校で給食支援。



ELCC 国際子ども学校

代表者 谷 景子

2025年活動報告から

名古屋学生青年センターが運営する国際子ども学校（以下 ELCC）は、さまざまな理由で地域の学校や幼稚園・保育園等に通うことができないフィリピンにルーツをもつ子どもたちのための学校として活動しています。毎週月～金曜日の5日間、1日5時限（40分/時限）の授業を行っています。幼稚園から高校生に当たる年齢を対象とし、幼稚園、小学生、中学生、高校生の4クラスに分け、年齢やその必要に応じて日本語、算数、社会、図工、音楽、フィリピノ語、英語などの授業を行っています。また、遠足やプール、運動会、クリスマス会、卒業・修了式などの行事の他、健康診断、歯科検診、インフルエンザの予防接種（費用の半分を学校が負担）も実施しています。

近年は日本で働く親と暮らすために来日した子どもが、日本語を学びながら日本の習慣に慣れる等、学校や地域社会に出て行くまでの準備の場としての役割が大きくなってきています。

2025年3月末の在籍数は18名（11名が卒業・修了し、うち5名が地域の小中学校に入学・編入、6名が地域の定時制高校に入学。実際には7名が高校を受験し全員合格したのですが、1名は家庭の事情で入学を断念）。2025年度は4～12月までで17名が在籍。家庭の事情により途中で通えなくなったり、帰国してELCCを離れた子どももいますが、2026年1月現在13名が通って来ています。そのうち2名が高校入学を目指し、2月の入試に向けて受験勉強に励んでいます。またその他にも5名が4月に小学校への入学や編入を予定し、それぞれ準備を進めています。2026年3月20日に卒業・修了式を行いますが、例年通りその前に1泊2日のお泊り会を予定しております。



みんなでカレー作り

玉ねぎの苗植えと
エンドウ豆の
種まきをしました

【お知らせ】

名古屋学生青年センターが2026年3月末をもって全ての活動を終了します。しかし、ELCCがこれまで担ってきた社会的な役割や責任を鑑み、4月以降は、新たに設立された「一般社団法人 国際子ども学校」が運営を引き継ぐ。授業内容や年間の諸行事は変わることなく行われると聞いています。

これまでの日本聖公会婦人会の皆様からの多くのご支援に感謝申し上げます。力強く励まされながら28年間、300名を超える子どもたちと共に過ごし、活動を続けていくことができました。運営母体は変わりますが、引き続き国際子ども学校とその子どもたちのためにお祈り、お支えいただければ有難く思います。

沖縄、辺野古のヘリコプター基地反対協議会の働きのため

代表者 浦島悦子／仲村善幸

辺野古が米軍基地の移設先になった経緯とこれまでの経過

1995年、沖縄で米兵3人による少女への暴行事件が起き、県民の怒りが高まった。日米両政府は翌年4月、基地負担の軽減策として、市街地（宜野湾市）にある米軍普天間飛行場の返還に合意した。ただし、その条件は県内移設とされ、名護市辺野古が移転先になった。

日米両政府は辺野古の米軍キャンプ・シュワブとその沿岸部に、普天間飛行場の機能を移転する計画で、防衛省は2018年12月に約152ヘクタールの海域の埋め立てを開始し、シュワブ南側の海域、約41ヘクタールは、ほぼ終わった。2025年11月に東側の大浦湾の埋め立てに着手したが、開始から7年経っても投入した土砂量は全体の約17%（25年12月末）。さらに、沖に軟弱地盤が見つかり、改良のために7万本ものくいを打ち込む大規模な工事が必要となった。工事期間は延長となり、日本が負担する移転費用はさらに膨らむ。当時は5～7年以内に返還する約束だったが、基地の返還合意から今年で30年。移設完了は36年以降の予定。

- ・問題があっても沖縄県や名護市には工事を留める法的手段がない。
- ・平地の少ない沖縄に日本国内の米軍基地の70%が集中している。
- ・「沖縄の豊かな海と自然を壊す基地はいらない。」 沖縄の人々の心からの願いです。

私たちが、他人事ではなく自分にも関わる問題として、思いを寄せていきたいと思います。

（井田涼子）

2025年活動報告から

- ・ 辺野古ゲート前座り込み行動
 - ・ そのための集会テントの維持・補修、放送設備他の備品、消耗品
 - ・ 駐車場やトイレ送迎のための送迎車の運行（燃料代、維持費など）
 - ・ 大浦湾海上抗議行動（カヌー・抗議船による）燃料代
 - ・ 国を被告とする地元住民の抗告訴訟に関わる裁判費用代
 - ・ 船の保守点検・維持費・修理代
- 海上行動に使用する船（複数所有）の維持管理には多額の費用を要し、海上保安庁の暴力により船が壊されることも度々で、修理代がかさんでいます。本年は、老朽化によるエンジンの取り換え（1台）にも200万円余かかりました。

すべて全国の皆さまからのカンパ、浄財で賄っています。心より感謝申し上げます。



埋め立て工事が続く大浦湾

地域支援団体 釜石支援センター望

代表 海老原祐治

2025 活動報告から

12月はグループ合同サロンが1回、単独のサロンが6回、のぞみストレッチ体操はお休み、計7回のサロンを実施。サロンでは恒例のチームキリタンポによるキリタンポを作って食べる会、どら焼き作り、ビーズツリー作りなどが行われ、皆さん楽しめました。寒い日が続き体調不良を訴える方も多く、体調管理の徹底を呼び掛けています。

望ニュース 12月号より 《トピックス》 「どら焼き作り&お茶っこ」

大好評の調理系プログラム。そのなかでも絶大な支持を得ているのが「どら焼き」。12月は唐丹公民館と嬉石第1アパートの2か所で実施。いずれも大成功。お店で売られているどら焼きより美味しいと皆さん大喜びでした。秘密はみりんです。今回クックパッドで新しいレシピを探して再挑戦。より和菓子っぽく、よりしっとりした生地とうまれかわりました。ホットケーキミックスベースの生地のみりんを加えるだけで大変身を遂げたのです。スゴイですね。さらに驚くのは一日寝かせると美味しさがワンランク上がること。生地と餡子が馴染み、しっとりとした味わい深くなるのです。参加者は大喜びで「ご近所に配りたい」とか「孫に送りたい」と盛り上がっていました。美味しいものを皆で作って食べるのはいいですね。大切な思い出になります。ぜひ皆さんのご家庭でもお試しください。



NPO 法人ワンタイム

司祭 江夏一彰

長野県小布施にある新生会病院は、カナダミッションの海外医療支援の働きを大切に、毎年、バングラデシュのジョイラムクラ・クリスチャン病院に医師を派遣し、現地の患者さんの治療を行っています。今回も2025年12月26日～1月4日（8泊9日）の予定をしていましたが、この度の医師派遣は見送り、実施を取りやめることになりました。理由は、現地の治安がかなり悪化しているという情報をいただいたことと、2月に選挙が実施されることも関係があるようです。

来年度は派遣可能になるのではと考えております。ワンタイムの働きをお覚え下さいます。有難うございます。

感謝箱とわたし



ウィリアムス神学館 2年
セシリア 浅海由里恵

プロフィール

出身：大阪府大阪市
出身教会：日本聖公会大阪教区川口基督教会
(と聖ガブリエル教会に一時期在籍していました)
経歴：NPO法人やエキュメニカル青年活動、日韓青年交流、被災地支援などを経て、介護福祉士・臨床スピリチュアルケア師として、さまざまなケアの現場に関わってきました。
趣味：本を収集して並べて眺めること(読書といえるほど読んでいません)・フィールドワーク・ぶらぶら散歩

私には感謝箱を見ると思い出す風景があります。それは、私の祖母が食器棚に置いていた「青い箱」です。祖母はそれにとどき小銭を入れ、重さを確認するように大切に持ち上げていました。

幼い頃、祖母にその「青い箱」のことを尋ねたことを箱の手触りとともに憶えています。「ばあちゃん、これ何なん?」「これは感謝箱ってゆうねん。何か“感謝やな”と思ったとき、ここにお金を入れるねん。」「入れてどうするん?」「教会に持って行ってお献げするんやで。婦人会の活動でね。もうずっと長いこと続いてるねん。ひいばあちゃんも電話の横に置いてたんやで。」「そうなんや。長い活動なんやね。」

思い起こせば、祖母の口癖は「感謝感謝」でした。長い間続いてきたこの感謝箱献金は、祖母にとっては信仰と生活をつなげる大切なものだったのだと思います。幼い私にとって「青い箱」は不思議な宝箱のようであり、貯金箱のようでした。これは、祖母の手のぬくもりや声とともに記憶されています。祖母にとって、この感謝箱献金は祖母の信仰のひとつであると同時に、教会の祈りと働きを支える大切な営みを思い、重さを増すごとに、「感謝の祈り」が積み重なっていたのでしょうか。また、さまざまな方に奉仕を届けることができる感覚があったのだと思います。それは、祖母だけでなく、教会の婦人会に連なる方々にとっても「感謝の祈り」なのだと思います。この「青い箱」は、私に「日常に感謝をもつこと」の大切さを教えてくれました。私もその輪の中に微力ながら今後も参与させていただければと願っています。

編集後記

2026年スタート。世界中が大国の「自国ファースト」の嵐に巻き込まれ、冷たい風が吹き荒れています。イエスさまはこの地上に御国を実現するために、心の貧しい人、悲しむ人、柔和な人、義に飢え渴く人、憐み深い人、心の清い人、平和を実現する人と呼ばれ集められます。私たちも「日々の感謝の祈りと献金」で、イエスさまの働きに参加しましょう。(井田)



日本聖公会婦人会感謝箱献金事務局
〒520-2331
滋賀県野洲市小篠原 847-6
井田涼子方
TEL/FAX 077-599-3728
Email suzuko@da2.so-net.ne.jp